
足をのぼして歩いてみた

白和希弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

足をのばして歩いてみた

【Nコード】

N8167P

【作者名】

白和希弥

【あらすじ】

空気のようなふわふわしているのが、地面に足をのばして歩こうとするお話

空気と空気のお話（前書き）

初投稿作品です；

なにかをかえたくて書きます。

なので支離滅裂な部分もあるかもしれませんが、よろしくお願いします。

空気と空気のお話

「省治ー。」

「ん？」

「中じいが呼んでいた。」

「うそー…。」

中じいとは俺の天敵の先生であって、この学校で唯一俺を追ってくる珍しい先生。

多分進学できるか、できないかの瀬戸際だと言われた。

正直どうでもいい、自分のことなんて。

学校はなんとなくきているだけ。

人生もなんとなく生きているだけ。

そんなことを思っていたせいで進学が危うくなっていた。

でもけして焦りはしない。

だってなんとなくならいんじゃないのかな、って思っているからしょうがないんじゃないかって諦めている。

人生諦めが肝心というじゃないか。

だから俺は全部諦めている。

「行くのか？」

「あは、まさか。」

「だよな。」

なに今日も授業受けねえの？」

「うん。」

なにかあつたらまた探してー。」

じゃあね、と言って俺はなにもしないかばんを友達に預けて屋上に逃げた。

「ねえ、そこ俺の場所なんだけど。」

「：別にあなたの場所とは限らないでしょ？」

「：うるさいなあ。」

最近俺の場所をとる生意気な女。

いくら緩い俺の学校でもこんなに目立つ容姿をしているやつはみたことはない。

ところどころ赤い頭に眼帯、改造した制服、チェーンのついたスカート、黒のブーツ。

：大丈夫なのだろうか、コイツ。

「お前大丈夫？」

「なにが？」

「いろいろと。」

「ああ、そう。」

私別に進学もくそもないし？」

「は？」

「知りたい？」

「いや別にいい。」

「なーんだ。つまんねーのー。」

自分に心配されるくらいはどうしようもない奴なんていないと思っ
ていたがいたし。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8167p/>

足をのばして歩いてみた

2011年1月4日01時28分発行